

第 9 回
市立病院評価委員会

令和 7 年 1 2 月 2 4 日

箕 面 市 議 会

目 次

●市立病院評価委員会（令和 7 年12月24日）

協議事項 1	箕面市立病院に関するアンケートについて	評－ 2
協議事項 2	その他	評－27

● 日 時 令和 7 年12月24日（水曜日）
 午後 1 時 0 分開会
 午後 3 時19分閉会

● 場 所 箕面市議会委員会室

●出席した委員

委 員 長	中 嶋 三四郎 君	副委員長	田 中 真由美 君
委 員	金 森 いずみ 君	委 員	山 根 ひとみ 君
〃	浦 川 倫 子 君	〃	武 智 秀 生 君
〃	藤 田 貴 支 君		

●欠席した委員
な し

●審査した事件

協議事項 1 箕面市立病院に関するアンケートについて
協議事項 2 その他

午後1時0分 開会

●中嶋委員長 皆さん、こんにちは。ただいまから市立病院評価委員会を開催させていただきます。

委員各位には定刻お集まりをいただきまして、ありがとうございます。12月に役員改選を挟みまして、事前にちょっとお願いもさせていただいていましたが、それぞれご事情がない場合は留任いただきまして、ありがとうございます。改めまして、任期期間中、よろしくお願いを申し上げます。

まず、出席者は全員出席でございますので、委員会のほうは成立をいたしております。

また、もう1点ご報告ですが、一応設置規程上、委員長の政策会派については別途委員を選出することが可能というふうになっているんですけども、今回は特段その必要性を感じていませんので、私の政策会派からは追加の委員は選出しないということでよろしくお願いいたします。

協議事項1 箕面市立病院に関するアンケートについて

●中嶋委員長 それでは、本日の議題ですけども、評価フローの中で行いますアンケートの意見集約を行わせていただきます。資料につきましては、別紙1-1、それから1-2を事前に共有させていただいておりますので、そちらの資料をご覧ください。

また、前回、アンケートについてご意見をくださいということで委員会を終わらせていただいていたんですけども、ちょっとその後、思ったよりもたくさん意見が出てきましたので、私の判断で追加でもう事前の意見集約をさせていただく形を取りましたので、委員の皆さんにはちょっとご負担を増やしてしまいまして大変申し訳ございませんでしたが、本日はその集約結果のご確認等をさせていただけたらと思っております。

個別のアンケートの中身に入る前に、事前にアンケート自体の目的であったり方向性みたいなことについてお問合せをいただいていたので、ちょっとその点の確認から再度始めさせていただきまして個別の確認に移らせていただきたいと思いますと思っております。

ますので、よろしくお願いします。

それでは、早速ですが、まず、アンケートの趣旨といいますか、コンセプトのところの確認をさせていただきたいと思いますが、もし事前に皆さんのほうからご質問やご意見があれば出していただきたいと思いますと思うんですが、一応浦川委員からお聞きをしていたので、しょっぱなですみませんが、ご発言いただけたらと思います。

どうぞ。

●浦川委員 失礼します。意見集約のときぐらいに委員長のほうに、こちらの市立病院に関するアンケートのコンセプトがちょっと私には過去の会議録とかを見て読み取れなかったもので、評価委員会のアンケートがどの手法、どこをメインにしているのかが不明瞭ではないですかというところで、医療の質なのか、病院の建物に関してなのか、患者さんへの対応なのか、何を調べるためにやっているのかがちょっと私の中でのみ込めないもので、どれですかというふうにお問合せをさせていただいたところ、評価のポイントは人によって違うのと、前回のアンケートで市民の関心が高かった項目を重視しているということだったんですけども、これは議会が病院を評価するアンケートなので、皆さんとどこを軸にするのかをしっかりと固めといたほうが、項目についても、私はたくさん意見を出させてもらったんですけど、方向性が定まるかなと思ったので問合せをさせていただいたというところで、お時間いただいて皆さんと意見交換して決めていけたらと思います。お願いします。

●中嶋委員長 ありがとうございます。

ほかの皆さんもご意見があれば出していただけたらと思いますが、一応改めてこの間の議論をご承知おきいただいていると思いますが、アンケートの趣旨等についてご説明をさせていただけたらと思っています。まず、アンケートの目的といいますか趣旨に関する部分としては、指定管理者制度の導入を決めた、議会としても決めた段階で非常に大きな変化であるし、当時もしくは今時点もそうかもしれませんが、まだまだ指定管理者の運営ということに対し

て市民の皆さんが不安を感じていないかといえ、不安を感じておられる方もいらっしゃるというふうな現状であったと思っています。

ですので、議会としてその議案を議決するに当たって、本会議場で附帯決議等も出させていただいたという経過があるんですけども、市に任せっきりになるのではなく、議会としてもオフィシャルなプロセスで病院運営の評価をしようということがそもそものスタートだったというふうにまず認識をしています。

じゃあどういふふうに評価をしようかという議論をそこから始めていくことになるんですけども、まず先ほども少し触れていただいていたが、医療の質であったり専門性、もしくは経営的な観点、この辺については指定管理者導入に合わせて市のほうで評価フローを定め、専門的な学識者等にも入っていただいて、当然市の事業ですので、市のほうも第三者評価を行うということがまず大前提にありました。なので、議会が評価するときに同じことをやっても、当然専門性があるわけでもありませんし、市の評価と同じ質のフローができるわけではないというのがまず1点。

もちろん市が評価をしたことをどう認めるのかということは議会の役割ではあると思うので、むしろその流れに含まれていないことを議会として評価すべきじゃないかというのが始まりの議論だったと思っています。そのときにコンセプトにしたのは、市民の方にとってはどの診療科のどの質がどうか、病院の経営がどうか、そんなことは実はあまり関心事ではなく、むしろ自分が実際に病院に行ったときに、もしくは行こうと思うときに、快適に行けるとか行ったことに対して不具合が生じないとか、そういうことが実際に市民の方にとってはより身近な評価になるんじゃないかなというコンセプトで出発をしましたので、じゃあ実際に市民の方が病院のどういうことに関して関心があって、そのことをどういふふうに評価をされているのかということを事前のアンケートとしてまずは把握をしようというのが、せんだって集約をさせていただいたアンケート結果

とアンケートをやることになった趣旨だと思っています。

ですので、そういうコンセプトとアンケート結果に基づいて、今回アンケートのたたき台を示させていただいたのは、割と広く浅くという印象ではあると思うんですけども、市民の方が市立病院に対してこういうことに興味がある、こういう評価軸をお持ちであるということをしてできるだけ含んだ形の評価項目、アンケート項目をつくらせていただいたというのが、この間の議論も含めたアンケートについての認識かなというふうに思っております。ですので、どの項目が知りたいというよりは、市民の方が関心のあるところに関連する項目を抽出しているというのがまず1点。

それから、アンケートの質という意味合いでいうと、あくまでこのアンケートの目的と言い切ってしまうと語弊があるんですが、まず第一弾としては、この項目に対しての傾向を把握するというのがアンケートの目的です。ですので、もちろん細分化したりとか、より深い項目を聞いていこうと思えば幾らでも聞けるわけなんですけど、ちょっと後ほどの話とも関わりますが、個別の紛争とか個別の事象を全て把握するというのをそもそも目的にしていませんので、それは一応その他で書けるようにはしているんですか、主の目的にはしていませんし、そういうものを取り扱うという趣旨の委員会でもございせんので、それも踏まえた上で深掘りをどんどんしていくというアンケートではなく、広く浅く市民の方が関心のある項目についての傾向をまずは把握すると。その傾向を把握した中で、著しく例えばお医者さんの対応が悪いとか、待ち時間が長いとか、傾向的に見てここに課題があるんじゃないかというふうに把握できる項目が見られた場合は、そこからさらに深掘りをしていくということはいらないというふうに思っていますけども、そういう形で、アンケートを入り口とした評価フローのイメージとしてはそういうことを想定していますので、この間意見集約した評価フローも、そのことを前提にした評価フローのたたき台になっているというふうにご理解いた

だけたらなというふうに思っています。それが2点目ですかね。

主にはそのぐらいが今のお問合せ等に関してご説明として改めて言うておくべきことかなというふうには思っていますので、その前提でちょっとほかの皆さんからもご意見があれば出していただけたらなと思います。

どうぞ。

●山根委員 改めてご説明いただきましたので、私の認識と相違ないなという感想です。

これも私質問したかと思うんですけども、ちょっと失念しておりましたので再確認。協和会独自で、よくお客様の声とか患者さんの声とかご家族の声というのが、紙のボックスとかを設置されているところがあるんですけども、それをされているかどうかと、それをお互い照合するじゃないですけども、それをお互いが知る由はあるのかどうかはどうかかなと思います。

●中嶋委員長 一応把握している範囲で言いますと、事前の段階は協和会さんのほうでもお客様アンケートみたいな形のはされるというふうに聞いています。4月から協和会の運営に切り替わっておりますので、そのアンケートがどの時点で行われるかまではちょっと把握をしていないんですが、予定どおり変わらなければアンケートはされるというふうに思っています。

そのことを共有いただけるかどうかという意味合いでいうと、できるとも言えるしできないとも言えるというのはうちのアンケートも同じだと思うんですけども、そもそも協和会さんがどういう目的でアンケートを取られているかと、そのアンケートの取り方上、他の機関に対して共有するというのをよしとしているかどうか等もあろうかと思うんですけども、うちと同じように傾向的な結果を共有してくれという話は可能なんじゃないかなというふうには思っていますので、実際の我々のアンケートをやりつつ、協和会さんのアンケートがどうだったのかということは、評価フローの中で照合するようなものがあればやってもいいのかなというふうには思っ

ていますが、今のところは別々という道筋で思っています。

●山根委員 質問しながら思ったんですけども、病院が独自でされるのは、多分記述式が多いと思うんですよ。よくスーパーとかでもありますけれども、こんな紙があつて、お客様が書いて。それをよく考えたら私たちが知らなくもいいのかなとは思いますが、後ほどフローで出てくるのかもしれませんが、私たちの行ったアンケートを協和会に一定の期間を経たらお届けするというか、それは当然ながらあるということですよ。

●中嶋委員長 そうですね、一応今のところ、フロー上は年1回、最終的な場面設定として協和会さんとも直接意見交換をさせていただくということを想定してまして、そのときに我々のほうの評価結果としてはこうですよということを、改善要望等もあれば含めてお伝えをするということになると思うんですけども、当然そのときに我々の取ったアンケートの結果ですということで、そこに参考資料として添付をするということになるかと思いますが、そのタイミングもしくは事前になるかもしれませんが、我々のアンケートも協和会さんのほうには届くという認識です。

ありがとうございます。

どうぞ。

●金森委員 すみません、私、今回新たに参加させていただくのでちょっと認識不足の点があるかと思いますが、このアンケートなんですけど、さっきおっしゃっていたみたいに指定管理に運営が移って大きな変化になるということで、市民の皆さんのお声をお聞かせいただくということなんですけれども、議会としてあくまでも公立病院としての役割を果たしているかということをこのアンケートでチェックしていくという認識で合っていますか。そういうわけではないんですか。

●中嶋委員長 そういう要素も当然ながら含んでいるとは思いますが、なぜならば、行かれている方が公立病院だから行っているかどうかはちょっと分かりませんが、そう思っ

しやと思うので、当然アンケートの中で公立病院に対して望む意見として含まれているものも、全てではないかもしれませんがあらうかと思しますので、当然そういう要素は含んでいると思います。

ただ、もう少し掘り下げていったときに、公立病院であるということの一応定義づけがありますよね。4つの柱立てをやるということを一応市としては公立病院の役割の定義だというふうにしていますので、その役割がきちっと運営上担えているかどうかということについては、まずは第三者委員会の評価だというふうに思っていますので、その第三者委員会の評価を議会のほうに当然共有していただくことにならうと思しますので、それをこの中にぶち込んでやるかどうかはちょっとまだはっきりこうだとは今言えない現状ではあるので、個人的見解程度で申し上げますと、それはそのラインとしてやるべき、評価委員会はこのアンケートの趣旨に基づいて、市民の皆さんが市立病院に対してどの程度の満足度を感じていたりとか、どういう改善を望んでいるのかということ把握するというのが本旨かなというふうには思っています。

ただ、そこまではっきり決めていませんので。

●金森委員 このアンケート、項目を広くされたということで、本当にたくさんまとめていただいて考えていただいた、ありがたいと思うんですけども、これ今回やってみて、これから継続していくということで、聞いてみた中で深掘りされる中で項目が変わるということもありということですか。

●中嶋委員長 2つ要素があると思っていまして、1つは定量的に評価をしていくということを想定した場合は、一般的手法としてはできるだけ調査内容が変わらないほうが定量的な経年変化は見られるんじゃないかなと思っているので、そのことは一応まず第一としています。

ただし、今回もそうなんです、比較的項目としては多いということになっておりまして、なかなか気軽に答えられるかのラインの今ぎりぎりを行ってあるなというふうに思っていますので、皆さんからいろいろご意見を出していただいて、これはいい

んじゃないかとか、これはもうちょっとこういう聞き方のほうがいいんじゃないかみたいなことは当然、回数を重ねる中での微修正としてはあり得るのかなというふうには思っていますし、途中からやっぱりこれが要るんじゃないかと、今までの経年変化に付け加えないといけないんじゃないかという項目が皆さんから一致で出てくれば、当然その項目も付け加えていくという議論にならうかと思しますので、その範囲でイメージしていただけたらと思います。

どうでしょうか。

どうぞ。

●浦川委員 先ほどの中で、市民の目線でのアンケートなのかなというところで、市民が見る病院についてのアンケートという観点で皆さん合っていますかねというところだけ確認したいんですけど、どうですか。

●中嶋委員長 恐らく皆さんそうではないかと。

●浦川委員 市民から見る病院というイメージで項目をこれから見ていったらいいということでよろしいですかね。以上の確認でございました。

●中嶋委員長 よろしいですか。

では、一応変わらず、この今の趣旨は一応前提にさせていただくということで今回は進めさせていただきたいと思います。

どうぞ。

●浦川委員 市民から見た病院目線でのアンケートというところで、病院への建物に関しての意見が、いいとか悪いとかあると思うんですけど、それを議会が集約して何とかできるものではないんじゃないかなというところもあって、例えばこの部分のここがって明確だったら、例えば清掃が行き届いていないってところなのか、患者さんとか来院者の使い方が悪いというところなのか、スタッフさんも使っていて汚いということなのか、そもそも建屋が汚いというところなのかというのは調査したら分かると思うんですけど、前者の使い方が悪いのと清掃が行き届いていないところに関しては、そういう意見があるから改善してくださいねというのはできると思うんですけど、建屋が汚いというところにおいて

は、議会から建屋が汚いので何とかしてくださいね
というのは言えないと思うので、そういうところは
もうちょっと明確に聞いたりできたほうが市民目線
でのアンケートなのかなというふうに思いました。
意見です。

●中嶋委員長 ごめんなさい、ちなみに、それはど
の問いのことを言うてはりますか。

●浦川委員 だから、まだ、項目は。项目的なとこ
ろも行くんですか、これ。私が今言ったからですか。

●中嶋委員長 今の問いがどれのことを指している
のかだけ教えていただけたら。

建物に関すること、どこか入っていたっけ。

●議会事務局 建物そのもののことは、設備環境に
ついてというのが問いの37番辺りにありますが、こ
こもトイレの清潔さということで書いています。あ
とは診察室、待合室の快適性や清潔さについてとい
うことで問39で上げさせてもらっていますが、建屋
そのもののことということでは、ちょっと今回はた
たき台の中には入っていないと思います。

●中嶋委員長 ありがとうございます。

●浦川委員 清潔さというのは清掃状況とかだと思
うんですけども、快適性といったら遮音ができてい
るとか空調がよく効いているとか廊下が滑らないと
か、廊下が滑るとかだったらワックスをかけたらと
か、通りにくいんだったら椅子の配置を変えたらと
いうところにはなるかもしれないんですけど、そも
そも空調もちゃんと稼働がいつまでできるか分か
らないですし、ライティングにおいてもいきなりLE
Dのすごい明るいとかにはできないので、快適性
というところがどこにどうフォーカスしているかが
ちょっと分からないんですけど、こういうところは
もうちょっと明確に書いたほうが答えやすいんじ
ゃないか、主観的にそれぞれ思う快適性とか清潔さ
というのが分かりづらいので、もっとフォーカスし
たほうがいいんじゃないかなというので、建物系じゃ
なくて清掃が行き届いているのか、使い方ってそこ
ら辺なのかなというところを。

●中嶋委員長 項目立てが設備とか環境ではなくて、
清掃についてとかそういうことのほうがいいんじ

ゃないかという。

●浦川委員 そのほうが分かりやすいというか、答
えるときもそういう視点なのかなというふうに、答
える側も広い視野で答えるより、清掃のことを聞い
ているんだなとか使い方について聞いているんだな
というのが分かりやすいかなというふうに思いま
した。

●中嶋委員長 ありがとうございます。

ちょっとその辺は後ほどの個別の確認で改めてさ
せていただくとして、一応コンセプトの話に戻せ
ていただきますと、先ほど言いましたように市民の
方が病院をどういう視点で評価をしているのかとい
うことを見える化しようというのがアンケートのま
ず趣旨だということは皆さんご承知をいただいた
というまず前提なのと、ちょっと先ほどの、後の議論
にも関わるんですけども、もちろん全てをできるだ
け細分化したほうが当然取れる情報については増え
るということではあるんですけども、一つはその作
業の裏側には答える方の手間があるということがセ
ットになっているということと、今の質問が別に質
問を増やせという意味ではないということは理解を
した上で、まずそれが1点、関係性としては出てき
ます。

その上でもう1点は、先ほども言いましたが、あ
くまで具体的中身を全ての人の意見として知りたい
ということは優先していませんので、確におっし
やるように清潔さという主観的な項目に対して何を
感じるかは人それぞれだと思いますし、この質問に
対して今意見があったように、これは設備とか環境
よりも清掃って聞いたほうがいいんじゃないかな
なことを感じる方も当然いらっしゃると思います。
ただ、そこを全て網羅するということになるとどう
しても設問であつたり回答枠が増えてしまいますの
で、そういう意味で今回は事前にそこを絞り込むた
めにアンケートを取って、そのアンケートの傾向
上、そもそもこの項目に対して皆さんの関心が高い
んだということを抽出してやるということですので、
その前提を踏まえて後ほどの確認をしていただけた
らありがたいなとまず思います。

それでは……。

●浦川委員 すいません。前回の調査で市民の関心が高かった項目を重視しているから傾向上高いんだというところで分けているということは聞いたし理解もしたんですけど、市民目線でのアンケート、だがしかし、議会が市民からの関心が高かった項目を見るのか、議会はこれが見たいんだというところを調査するもんじゃないのかなと思っているので、市民目線での関心が高い項目と議会がどうしても見たいよというところの合わせ技の項目にしたアンケートがいいということですよという確認なんですけど、伝わっていますか。すみません。市民の関心が高い項目を重視するが、議会が調べたいのはここだというのと市民の関心が今回高かった項目がちよっと違うところもあるけれども、議会が見たいのはここだという合致点がコンセプトと軸になると思うんですけど、そこ……。

●中嶋委員長 市民の関心が高いことと議会が見たいことに相違があるという意味はあんまり理解できていないんですけども、アンケートの手法というか流れとしては、恐らく言われていることを僕は含んでいるつもりでして、それは先ほども言いましたが、この1問で全てを理解したいわけではないんですね。あくまで市民の方の関心事もしくは評価軸がどこにあるかということを出した上で、その評価が著しく低いという結果に対して、今言われたように例えばじゃあ清潔感に関する項目が著しく悪いということであれば、当然じゃあ何に対して具体的にそれを感じているのかということは、そこから深掘り必要はあると思うんです。

ただ、それを毎回全てできるかというとなかなかそれも難しいので、それを優先順位として見極めていくための段階をつくっているという理解だと思っています。なので、一緒くたにはできないんですけども、段階をつけてそこまで行けるようにはしているというのが今の評価フローと、その評価フローにはめ込んでいくアンケートというふうに僕は理解をして提案しているつもりではあるので、ほかの皆さんはどうですか。

●藤田委員 1回のアンケートだけやったら、多分おっしゃるような質問項目をたくさん入れたらいいと思うんですけども、これ毎年やる話なんで、毎年やっていくと今度、委員長がおっしゃったように傾向が見えてくると思うんですよ。その傾向の中で、例えば快適性のところがいつまでたっても、毎年の中ではちゃんと言いますよ、今年は快適性ちょっと低かったですよって病院には言うんですけども、その改善が見られなかったときに初めて、やっぱりどこが悪いんだろうというのは議会としても深掘りしないといけないと思うんで、そこはまずはこのアンケート自体が一回きりでなく、傾向を見るためのアンケートなんだというような理解がまず必要じゃないかなというふうには思います。

●中嶋委員長 ありがとうございます。
どうぞ。

●浦川委員 何度も、理解が悪くて申し訳ないんですけど、傾向を把握するアンケートで、議会がそれを見てどこを評価するのか、傾向を把握するだけの評価ですか。傾向を把握して深掘りしていくのは先ほど言っていたデータの蓄積だと思うんですけど、議会としては傾向を把握するのが目的なんで、こういうの大事だよねという議会が持つ視点は特になんということなんですよ。

●藤田委員 利用者が持つ視点はどこなんだというのを前のアンケートで把握したんで、そういう意味で利用者目線、お客様目線だというアンケートだというふうには僕は認識しています。

だから、我々が勝手につくったアンケートであれば、それは議会目線になっちゃうんで、そうじゃないんですよ。一旦市民の方々の意向を確認するためのアンケートを前回取ったんで、それに基づいてできているアンケートだから市民目線なんですよという、僕はそういう把握をしています。

●中嶋委員長 言われている議会目線というのが何なのかがちょっと僕分かっていないんですけど。議会が把握したいことと、このアンケートに違うところがあるということですか。

●浦川委員 違うところがあるのではなくて、市民の

傾向が高いので傾向を把握するのがこのアンケートだけでも、何を、このアンケートからは評価するんじゃないくて、アンケートは一つのテストの情報源として評価する一つです、これ評価委員会ですよ。評価委員会なので、アンケートではこういう傾向が出たよ、第三者評価ではこうだよという幾つかを並べて評価するのがここの委員会だと思っているので、その一つの評価軸としてこのアンケートがあるんだよという理解でよろしいですかというところ。

●中嶋委員長 一つの評価軸という言い方がちょっと分からないんですけども、先ほどから言っているように、我々の目的は市民の方が病院に対してどういう評価をしているのか。当然それは評価の裏側に対して課題が含まれているということなので、その評価するという意味合いは、指定管理者の運営において何が課題になっているのかということをも市民の皆さんがどう感じているかという視点から抽出をするということ。なので、まずはその傾向がどこにあるのかということ把握する。それは単発のものでそうですし、先ほど藤田委員が言われたように、傾向として見ていくこともそうですし、その2つの流れからどこに課題を感じておられる市民が多いのかということをも当然まず把握すると。それを傾向的に把握した上で、あのフローで示しているとおりですけども、じゃあその高い傾向が出たもの、もしくは課題認識が出たものに対して、具体的にじゃあどういう個別の課題があるのかということは当然深掘っていく必要があると。かつ、その深掘ったものに対して改善策を考えていかないといけないので、そのことは我々が一方的に言っても、言うだけでは改善しないこともあると思います。そういう意味で、改善策を検討しつつ、最後のフローとして協和会さんともそのすり合わせであったり意見交換をした上で改善を促したり要望していくということが評価の帰結になりますので、アンケートとかこの評価委員会の中身として、例えばじゃあ第三者委員会の評価が入ってくるかということ、そうではないですよというふうに先ほどご説明させていただいたのはそういうイメージです。

●藤田委員 評価が今までは議会だけだったと思うんですよ、民生常任委員会だけだったと思うんですよ、旧の市立病院でいくと。それが今回、第三者委員会と、もちろん民生常任委員会でも議論はされますし、そこのされないところ、そこでの隙間というのが利用者の声だと思うんです、市民の声だと思うんですよ。そこを埋めるのがこの評価委員会だというふうに僕は位置づけているんで、そこで初めて全てが網羅できるのかなと、病院を評価するに当たってね。というふうに僕は認識しているんで、だから一つの役割です、ここの。全体を評価するんじゃないくて、お客様目線、市民目線で評価をするという、そういう委員会だというふうに僕は認識しています。だから、委員長がさっきおっしゃったように、経営がどうか、そういうのはまた違うところで評価をするんで。

（「市民目線のということか」と呼ぶ者あり）

そうそうそうそう。に限定したと言うほうがいいかもしれない。

●中嶋委員長 伝わっていたら幸いです。すみません。

では、ちょっと時間もあれなので、コンセプトの話は一旦この辺にさせていただきまして、ちょっと個別のほうの確認をさせていただきたいと思いますので、別紙1－1のほうをご覧ください。

事前にL o G o フォームのほうで項目に対してのご意見をいただきましたので、それをまた選択肢として皆さんに意見集約をお願いした結果が別紙でございます。

ちょっと全てを1個ずつ確認していくと時間ありませんので、一応意見集約結果は一番右端に集約いただいているとおりですので、この結果をまず最大限反映するというのが結論です。

その上で、ただ、書いていただいた項目、意見として出していただいた項目に説明する機会を与えられなかったのも、ある程度ちょっと区切りながら、もし、ここの項目はこういう意味だったんだということはどうしても補足したいということがあれば若干出していただきながら確認いただきたいと思います。

すので、よろしくお願いします。

それでは、まず1つ目、ゼロ番の表紙についてということで2点、自民保守の会さんからご意見をいただきまして、その点については全会派これでいいと、この意見のとおりということで集約をいただいておりますので、この点については別紙1-2のほうで今日、一応案を追加で示させていただいておりますので、ちょっと事務局、説明できますかね。

●議会事務局 別紙1-2のほうですね。自民保守の会さんのほうからアンケートの表紙に指定管理者についての文言の説明を追加というのと、あと、アンケートの目的の記載にもう少し個別の事故や事件、トラブルを解決する目的ではないということを明記してくださいというご提案ありまして、こちらのほう、先日再度取らせてもらったアンケートのほうの再集約で7会派さんともこの趣旨に賛同してくださったので、考えた案になります。

もう少し下のほうにスクロールしてもらって。

●中嶋委員長 もうちょっとスクロールしていただいて。逆ですね。一番下までスクロールして。

●議会事務局 この赤字のところになります。ちょっと読み上げさせていただきますと、まず、指定管理者制度の説明のほうですね。一番上ですね、米印の1、米印の2とありますので、その注釈ということで下段に入れさせてもらっておりますが、指定管理者制度は、市が指定する法人等に、公共施設の管理運営を包括的に行わせる制度です。施設の管理・運営は民間のノウハウを活用しており、今回、市立病院の指定管理のこともありますので、市立病院においても指定管理で運営するに当たり、救急医療や小児医療等、必要な医療が提供されるよう、医療提供体制の確保に努めるものですということで加えさせてもらっております。

また、米2つ目ということで、アンケートは個別の事故・事件やトラブルの解決を目的としたものではありません。あらかじめご了承くださいということで断りを入れたものを提案しております。よろしくお願いします。

●中嶋委員長 ということで、一応皆さんご異議な

しということだったので、一応案まで今日示させていただいておりますので、文言修正はそんなにないかなとは思っておりますが、もし何かあればまたご意見を出してください。

では、続きまして(1)から、ちょっとある程度切らないと時間がかかるので、(3)の問いの外来の項目までで一旦切りたいと思いますが、一応この範囲の意見集約としては、意見が出されていたものとの結果でいいますと、たたき台のままというのが意見集約の結果となっておりますが、ご提案をいただいた会派さんの説明をいただく機会がなかったので、もしこういう趣旨なんだとか、ここだけはどうしても言いたいというところがあればご発言をいただきたいと思いますが、どれかございますか。

どうぞ。

●浦川委員 問7の箕面市立病院を選択した理由は何ですかというところに、「箕面市立病院を初めて利用したきっかけは何ですか」というのを入れてほしいなというのを1点入れたのですが、何でかというところ、これを確認することによって、土日の救急外来なのか救急車の利用でなのか紹介状なのか、通院者の家から近いとか、そういうのもあるのかもしれないんですけど、病院の立ち位置が分かるので、そこでまず箕面市立病院はどういうふうにみんなに思われているのかのアンケートに答えた人にはいうところが分かるかなと思ったので、追加したらいいんじゃないかというふうにご提案させてもらって、問7の選択肢については、かかりつけ医がいるからとかの項目をかかりつけ医からの紹介状によりと救急車で搬送、救急外来で来た、または自分で選んで来た、その他、にしたほうが、自分で来たというところに病院のホームページを見てとか、そういうところが入って、かかりつけ医からの紹介というのは、かかりつけ医というのはホームドクターなので、町医者からの紹介状というのが分かるかなと思ったので、この項目にしたらどうですかというふうにご提案させていただきました。

あと、すみません、もう1点。外来と救急で分けたほうが、ERなのか普通の一般外来なのか分かり

やすいなと思ったので提案しました。以上です。

●中嶋委員長 という一応改めてのご説明をいただきましたが、それぞれ、それも分かった上でこの意見だよということであれば特に言うことはないと思うんですが、今のを聞いてもし何かご意見がある、変わるということがあればご発言をいただきたいと思いますが、どうでしょうか。

どうぞ。

●山根委員 この間7の市立病院を選択した理由は何ですかというたたき台に対して、市民クラブさんの初めて利用されたきっかけということですよ。

●浦川委員 「初めて」をつけて、選択してもらう。

●山根委員 ニアイコールかなという印象を持ったんですけれども、いかがでしょう。

このたたき台である程度分かるんじゃないのかなというふうに思ったんですけれども。

●浦川委員 前日も言ったかもしれないんですが、項目の「かかりつけ医がいるから」と「他の医師からの紹介」、「病院のホームページを見て」「救急搬送されたから」というのだけではちょっと網羅できていないかなと思ったので、選択肢は「かかりつけ医からの紹介状により」で、「救急搬送されたから」というのもありますけど、「救急車で搬送されたから」、「救急外来で行ったから」とかいうふうに分けたほうが分かるんじゃないかなという項目を出しました。項目を変えてもらえないですかという意味で、項目の選択肢も提出したんですけど。

●中嶋委員長 かかりつけ医からの紹介状というのは、他の医師からの紹介ということに基本的には含まれているというのがまず認識ですし、救急車での搬送は、当然救急搬送なので基本は救急車であり、なかなか救急で行く場合の、自分で行く場合もあるか。その場合はその他を選んでいただくということが基本的な項目の立てつけかなというふうに思いますので、あまりニアリーな選択肢をたくさん増やすということは逆に選びにくくなるという要素でもあるので、個人的な見解としては、言われていることが分かるところもあるんですけど、山根委員が言われたように今の項目とほぼニアリーなので、そこま

で変える要素にはなり得ていないかなというのは僕の個人的な見解ではあります。

ごめんなさい、この場でまた議論をして決めようということではないんですね。意見集約結果は先ほども言いましたがもう出ています。何回も言いますが、説明の機会を省いてしまっているという引け目がちょっとありますので、こういう趣旨だったんだということをどうしてもということについては発言の機会をぜひ取りたいなということで今時間を取っておりますので、説明を聞いた側の認識も、今、山根委員が言われたように、こういう意味ですかという確認は当然していただけたらありがたいなというふうに思っていますが、基本は説明された内容は自分の中で認識している範囲なんだということでこのご意見を出されているということであれば、それで問題ないというか、特にそれを改めてこの場で決めるということはしませんので、二度手間になってしまいますので。その確認だけをしていただけたらという趣旨でございますので、よろしく。

浦川委員、最後。最後と言ったらおかしいですけども、それを踏まえて何かあれば。

●浦川委員 「（紹介状）」ぐらいどこかに入れてもらえたほうが分かりいいかなと思ったので言いました。

●中嶋委員長 分かりました。ちょっとその件は、「紹介状」という文言を入れるかどうかはちょっと僕のほうで一旦預からせていただきます。

それでは、外来まではよろしいですね。

では、続きまして、入院のところからサービスまで行きましょうかね。その中で、これはどうしてもこういう趣旨だと言いたいというのがあれば出していただけたらと思いますが。

（「問い何番から問い何番と」と呼ぶ者あり）

ごめんなさい。問いの19から36までですね。多いですか。29ぐらいで切りますか、一回。

じゃあ、19から29まででまず一回切りましょう。ここは何か説明として追加しておきたいということ。言っても変わらないやんけみたいな感じはあるんですけど、でもやっぱりどういう趣旨であったかは明

らかになっているほうがいいと思いますし、遠慮せず言ってください。

●金森委員 大した趣旨といたしますか、じゃないんですけど、全部、看護師の言葉遣いや態度はどうでしたかとか、ドクターもそうなんですけど、ちょっと私的には、これが言ったらたたき台になるので、よりソフトといたしますか、丁寧な言い方のほうがいいかなと思ったので、印象的にね。なので、寄り添った対応でしたかぐらいの感じのほうがいいかなと思って変更案を出させていただいております。

●中嶋委員長 ありがとうございます。という趣旨でございます。

どうぞ。

●藤田委員 恐らくこれ、言葉変えても結果は変わらないと思うんで、どっちでもいいんですよ。僕もどっちでもいいんですけども、多分文言を変えたとしてアンケートの結果って多分変わらないと思うんで、だからそこは原案でいいんじゃないかなと思います。多分そういう目線で僕らずっと全部見てるんで、ご意見されるときもその修正案を入れたことによって記入する人の答えが変わるかどうかという、そういう視点で言っていただけるとありがたいです。

●中嶋委員長 何かこの設問のこの選択肢って、多分向きたい方向の問題なのかなって今ちょっと思ったんですけど。たたき台は恐らく悪い評価をあぶり出したいという言葉遣いなんだと思うんですね。日本共産党さんとか市民クラブさんは、恐らくいい評価も含めて出てくるような言葉遣いなんじゃないかなと。どっちにももちろん含まれていますけど、どちらかというところという傾向が言葉遣いにはあるのかなという気がしたので、そういう意味では藤田委員が言われたようにどちらの質問でも恐らく出てくる回答にそんなに差異があるわけではないかなというふうには思いますが、もともと僕が案として承認したものは、どちらかという言葉遣いや態度というもので不快を感じている市民の方がいないかということ趣旨の前提としていますので、割とはっきりそこを聞いたほうがいいという項目にはなっていないかなとは思いますが。

という、ごめんなさい、大した意見ではなかったんですが。

ここはどうでしょう。あえて変えるというところまでは皆さんいかないというご認識でしょうか。

どうぞ。

●金森委員 問29の病院内はスムーズに移動できましたかという、そこは動線ということですか。ちょっと私分からなくて。

●中嶋委員長 これは動線という意味でしたね。動線という意味です。動線にしますか。動線って書いたほうがいい。一応分かっていたいただけるかなとは思っていたんですけど。

どうぞ。

●浦川委員 動線だという意味で前回話があったので、括弧で私は追加のところを出させてもらったんですけど、そっちのほうが親切かな、スムーズのイメージ、さっきも清潔の話で言ったんですけど、動線だったら動線にフォーカスできるような問いのほうがいいんじゃないかなと思いましたので、追加というか追記で意見をさせてもらったというところでした。

●中嶋委員長 どうぞ。

●田中委員 多分、多分という入院中の移動って、ここに書かれているような入浴とか排せつとか、病院内はスムーズに移動できましたかですね。

●中嶋委員長 29です。

●田中委員 29ですね。

追加のところに書かれていますよね、入浴だったりとか排せつとかに変えられたらどうですかということちょっと具体的に書いてくださっているんですけど、入院中の移動って、この具体的に書いてもらっただけじゃなくて、例えば入院中に地下の売店に行くこともありますし、入院中に1階のMRIへ行ったりとかCT受けに行ったりとか、そういうこともありますので、ちょっとあんまり具体的に限定的に書きゃわらないほうがいいんじゃないかなと思います。実際に行きますから、入院中に。許可が出れば売店に買物も、日用品がなくなったら買物にも、許可出たら下りますし、だからあんまり具体的に書かないほ

うが、スムーズに移動できたという、入院中の生活の中で、それも快適性の一つだと思うんです。

●中嶋委員長 ありがとうございます。

●金森委員 おっしゃるとおり、入院中の快適性のところなので、お食事とか病室とか寝具とか細かく書かれていて、その中で入院中って、私自身も入院したことありますし、親の介護とかで入院していたときのことを思い返しながらこれを書いていたんですけども、やっぱり入浴とか排せつって、入院中本当に日々のことで、清潔を保つ上ですごく大事なことなので、私自身は病院内スムーズにというのはちょっとイメージしにくかったのでこの具体のほうがいいかなと思って、これに変えてはいかがですかという提案をさせていただいています。

●中嶋委員長 そうですね、今ご意見があったように、提案の趣旨もよく分かりますし、それを分かった上で、今ご意見があったように限定的であることが書き漏らす可能性もあるので、そのメリット、デメリットの比較なので、どちらが悪いという意味ではなく、どちらを選択するかというだけの話程度やとは思いますが、ここも難しいですね。はっきりこっちがいいとは言い切れないところはありますが、特に皆さんがどうしても変えるべきというところまでは至っていないというのが一応結論かなということではあるので、変えてもいいよという意見がないのであれば、このままいかせていただきます。

どうぞ。

●浦川委員 田中委員の解釈は間違っていないくて、私は問29を変えろじゃなくて、設問を私が増やしていたので、多分この問29のところにポータブルとか入浴とかのことが入っているんですけど、その1個下の追加というところに29のスムーズをもっと具体的にしたらいいんじゃないですかというふうに書いていたので、ちょっとL o G oフォームの集約のあれで分かりづらくなっていたんですけど、設問、「病院内はスムーズに移動できましたか？」を、私は「病院内の移動はスムーズでしたか？（段差などバリアフリーや表示、動線が迷わないか）」みたいな注釈というか、追加をしたらどうですかというふう

に回答を出したんですよ、当初の、意見集約のやつは。なので、そこだけ一応、問29を変えたんじゃないくて、私がいっぱい追記していったから番号がちよっと下にずれているので、そこだけお知りおきくださいという意見でした。すみません。

●中嶋委員長 分かりましたか。今のご説明は理解いただけましたか。

では、次、ちょっと時間が押してきたので、問30から、ちょっと最後は多いけど、30から39まで行きましょうか。30から39の間、どうでしょうか。

ここも若干さっきとかぶるところで、言葉遣的な問題は含まれておりますので、それも踏まえて、たたき台でいいというふうにご判断いただいたという理解ではありますが、どこか追加で説明をしておきたいところ。

どうぞ。

●浦川委員 すみません、問32のところで、こちら駐車場を利用する際、待ち時間は気になりませんでしたかというところを、39の設問、39……。ちょっと待ってください。

●中嶋委員長 39は待合室の快適性とか清潔さになっているんですけど。

●浦川委員 38と39の番号を入れ替えて、入れ替えた場合、38番が39番になると思うので、病院の公共交通機関のアクセスはどうでしたか、また駐車場についてはどうですかしてしらいかがでしょうかというふうに書きました。

（「一つに固めてしまう」と呼ぶ者あり）

はい、交通系を固めてしまっ、どうでしょうかねっていうのを提案したのは、ちょっとL o G oフォームの集約やと大変分かりづらいんですけど、私が初め打っていたワードの文章ではそういう感じで出させてもらっています。

●中嶋委員長 一応このもとの設問立てはサービスと環境に分かれていますんで、そこをもうちょっと再編したらどうかというご意見だったというふうには理解しましたが。問32は駐車場を利用する際の待ち時間に関しての認識で、問38はアクセス性への認識なので、問うているところは全然違うという

のがまず前提にはなっています。

●浦川委員 補足で、32番、駐車場となっているんですけど、「駐車場」を取って、「待ち時間は気になりませんでしたか」っていうことにして、駐車場を後ろに回してみてもどうですかっていうのを追記というか、ご提案していました。

●中嶋委員長 そういう意味ですね。「駐車場」を削除というのはそういうことやね。でも「駐車場」を削除したら、何の待ち時間かをまた考えないといけないから。

●浦川委員 サービスの枠に入ってるから。

●中嶋委員長 待ち時間が気になりましたかという質問があったら、大体何のってなると思うので、主語を消すのは32の設問としてはちょっとよくないかなという気はします。なので、32を消すという前提なら違うと思いますが。

●浦川委員 上の二つで、項目は聞いているかなと思ったので、駐車場の場所を……。

●中嶋委員長 そうですね、基本、入れ繰りの話なので、別に今のものでも、今提案いただいたものでも要素を失うわけではないということではあると思うんで、その辺を踏まえて何かあればという感じでですね。悩ましいですね。

どうぞ。

●藤田委員 確かに問38を読んだときに、交通アクセスは便利でしたかは分かりやすいんですけども、駐車場は便利でしたかという形になっちゃうじゃないですか。そこでちょっと駐車場が便利ってどういうことなんだろうというのは、今話を聞いて思いました。

●中嶋委員長 なるほど。

どうぞ。

●田中委員 何かちょっと浦川委員が言われたのも分かる気はするんですが、これ残しておいたら、評価が出たときに案外駐車場今混んでいるんだとか、何かそういう見方、捉え方というか、私たちもできるかなという気もしたんです。それで不満という人が多ければ、結構午前中の診察時間は案外駐車場がいっぱいで待っている人おるんやみたいなことが分

かるしというのもちよっと、あえて残すことで何か満足だったらそんなに駐車場が混まずに今の患者さんがみんなスムーズに止められているんだというのが何か分かる気もするし、ちょっと一回、一度これで残すというのもいい方法の一つじゃないかなという気はしました。

●中嶋委員長 どうぞ。

●山根委員 私の解釈では、38の病院の駐車場や交通アクセスは便利でしたかという駐車場は、入り口が分かりにくいとか遠くから車で来た場合に駐車場にどうやって入ったらいいのか分からへんという、そこに不満があると、表示を考えないといけないとか、国道171号ぐらいからこっちと誘導のためにと意味だと私は受け止めていたんですけど。

●中嶋委員長 もともとの認識は恐らくそうですね。待ち時間という質の部分とアクセス性という環境の部分という分け方になっているので、こういう設問にしました。

分かりました。ちょっとじゃあ一回預かります、この件は。私が提案しているのも分かりにくかったなと今ちょっと思う部分もあるので。ちょっとこのままいくという判断になるかもしれませんが、今日出していただいた趣旨をもう一回統合した上で、どちらのほうか今の趣旨、設問の趣旨に合うかということをやっと判断します。パターンとしては今のままいくか、今ちょっと思いつきですが、もう32を消してしまって38を2つに分けるか、どちらかがいいかなと今ちょっとぱっと思ったので、ちょっと一旦預からせていただくということで、すみません、32と38の質問に関してです。

じゃあ、次行ってよろしいでしょうか。次、問40から最後まで、47まででございますが。

主に利用されることがないという方に対しての設問でございます。

どうぞ。

●金森委員 問40の中で、さっき言っていた建物の躯体の問題なのか清掃の問題なのかというところが、建物が古いからというところにかかってくるのかなと思うんですけど、私は「建物が古いから」は議会

としてどうしようもないことなので、ちょっと削除してもいいんじゃないかなということで、削除でいかがですかということを出させていただいております。

●中嶋委員長 この項目の趣旨をもう一回説明させていただきますと、先ほども言いましたが、この4の間6で市立病院を利用したことがないという方に対しての設問であるというのがまず大前提です。その上で、当然設問は利用したことがない人向けですので、實際上、これが本当の理由なのかということについては、どういう制度なのかはちょっとさておき、ここの趣旨は、やっぱりいまだに市立病院に対してネガティブなイメージをお持ちの方って結構いらっしやると思うんですね。それは、広い意味でいうと当然市民の評価というカテゴライズに入るというふうに思っているんですけども、評価がネガティブな方の要素って結構いろいろあると思っていて、そもそも用がなかったから行かなかっただけではあるんですけども、ネガティブな要素を生じているのは何なのかと。それは単純な話で、例えば建物が汚いから行きたくないとかいう方も当然いらっしやると思うんですね。もちろんじゃあそれが改善できるんかという話はあるんですけども、もし建物が古いから病院として選択されないんだということなのであれば、改善云々の前に建て替わるので、その課題はなくなるということだと思うんですよ、単純な話として。なので、改善策を見越してどうかという設問ももちろんあるんですけども、ここはできるだけ単純な話として、どういうネガティブな要因をそれぞれ市民の方が抱えているのかということをあぶり出せたらいいなことなので、結構設問が多いというのは、ほかと比較しても設問が割と多いのはそういう意味合いです。

ちょっと過去にも話したことあると思うんですけど、結構僕も、皆さんもそうだと思うんですけど、市立病院に対してマイナスな評価を受けることあると思うんですね。ひどい言葉で言うとやぶ医者やとか、ちゃんとやってもらえなかったみたいなことをおっしゃる方は結構いらっしやると思うんですけ

ど、結構その話って自分の話じゃないんですよね。誰かがそうだったとか、そういう話を聞いたとか。利用されたことがない方であればあるほど、割と第三者的な話を基にそれを表現している方が多いというのが僕の印象ではあって、そういう意味も含めて真実も真実じゃないも、それが真っ当か真っ当じゃないかも含めて、利用したことがない方にはネガティブ要素をできるだけ聞きたいというのが、ごめんなさい、ちょっとまどろっこしい答えになっていますけども、そういう意図で選んでおりますので、何かおっしゃるように建物が古いからと言われても建物直せないじゃないかみたいなことは確かにおっしゃるとおりかなとは思いますが、それを差引いて、もし本当に建物が古いからという人がいっぱいいるんだとしたら、それは改善できるかどうかは別として、把握はしとくべきじゃないかなという意味合いもあるので、ちょっとその程度だと理解いただけたらありがたいなと思いました。

すみません、ちょっとしゃべり過ぎました。

どうぞ。

●浦川委員 40の項目で「建物が古いから」は私も削除したんですけども、項目を変えてほしいなと思った内容が、「おおむね健康で、市立病院にかかるほどの病気・ケガの経験ないから」はそのまま、（2）のかかりつけ医療機関と横の紹介状というのがほぼほぼ一緒だなと思ったので、「紹介されなかったから」とか「紹介状が必要だったから」に変えたらどうかと思ったのと、次は「交通の便が悪いから」というのは、紹介される場合、こことこことこの病院があるけどどれにするというのがよく問いにあるので、複数の紹介先の中で交通の便が悪いからとかにしたらどうかなと思ったのでこの選択肢を出したのと、次の「希望する診療科や専門医がいなから」はこのままで、「市立病院のことをよく知らないから」とかいうのは特にどうかなと思ったので、「特に理由はない」というのと、「診療時間が自分の都合に合わないから」というところは、大きい、紹介状をもらっていくような病院なので、診療時間が自分の都合に合わないとかあんまり関係ない

のじゃないかなと思ったので抜きました、という趣旨で提案しました。以上です。

●中嶋委員長 ありがとうございます。

一応複数回答可なのでちょっとだけ補足をしますと、紹介状はあったけど行かなかったという方も当然可能性としてはあるし、ということを含んだ選択肢には一応なっておりますので。ちょっとどういう組合せの質問だからどうみたいなのところまでちゃんとシミュレーションはできていないんですけど、そういう趣旨で選択肢を抽出しているということはちょっとだけ補足をさせていただきます。

ということで、40番についてのご意見ですが、どうでしょうか。何か意見が変わるといふうなところまでいきますか。別に「建物が古いから」は取ってもいいかなとは思いますが。

●金森委員 すみません、「建物が古いから」はおっしゃっていることは分かったんですけど、箕面市立病院って、いつやったかな、民生常任委員会で神代委員が討論の中で、中井武兵衛市長の当時に、すごい議会も一体となって、箕面市が誇るいい病院をつくるんだという当時の議員さんとか市長さんの思いでつくられた病院で、今でもやっぱり当時にしたらすごく素晴らしい病院やったと思うんですね。古いから、古ければ古いで、確かに40年以上たっているのだから仕方ないことやと思うんですけども、ネガティブなことばかりじゃなくて、やっぱり箕面市民としては誇りもあるところですし、実際の利用者さんからしたら、すごく私も使わせてもらっていていつも思うんですけど、廊下がすごく広くて解放感があって、市立病院といたら病院独特の何か空気感というか、本当に空気がきれいという言い方したら変なんですけど、臭いとかもこもっていないし、利用しやすいなと思っているので、そういう思いもあったというのもあるんですけども、ちょっと使ったことがない人からしたらうわさで聞いたということは分かるんだけど、ちょっと「病院が古いから」というのはどうなんかな、なくてもいいかなということで私は削除というふうに入れさせていただいています。またご検討いただけるということな

ので、よろしくお願いします。

●中嶋委員長 皆さんが抜けということであれば全然抜きますが、僕は病院の誇りと古さは関係ないと思っているので、古いもんは古い。我々も過去、いろんな病院に視察に行かせていただきましたけども、最近はずっとようやく落ち着いてきましたけど、いつときなんか物すごい、僕は否定的でしたけど、ホテルのロビーみたいな、意味分かん建物をはんばん病院の建て替えで造っているところ、結局ランニングコストがかかり過ぎて今すごいことになっていると聞いているので、まねしなくてよかったなと思っていますけども、古いということが一定利用者にやっぱり与える印象というのはあるし、今のタイミングだからこそ、やっぱりそういうことに気を遣う市民の方がいるんだということは当然新しい病院を建てることにおいても反映させるべきことだというふうに思っているの、別になくても全然問題ないんですけど、そういう趣旨で入れているということではあるので、その前提でご判断いただけたらと思います。

ほかはよろしいですか、47番まで。

どうぞ。

●藤田委員 ちょっと書いてはなかったんですけど、40番で設備が充実していないからというのは一つ理由にならないかなと。結構やっぱり病院は、「建物が古いから」にもつながるんですけども、やっぱり医療機器も含めて充実していなければ選ばれない理由にもなるかと思うので、そこはちょっと、今すぐじゃなくて結構なんで、委員長預かりでご検討いただけたらと。

●中嶋委員長 分かりました。ならちょっとそこは預らせていただくということで、今の藤田委員の案は確かにいいなと思いましたので、設備が充実していないからというのは代替案としては十分いいんじゃないかなとは思いましたので、ちょっとそこは預かります、じゃあ。

どうぞ。

●山根委員 このアンケートは新しく移転、建て替わった後も行われるということで、ちょっと特に40

番の設問は変化していてもいいのではないかなと思いますし、この40番のチェック項目は、なかなか時間とともに変わりやすい結果になると思うんですね。なので、この設問は全て入れておくほうが私はいいと思います。これをネガティブな意見を抽出するのとポジティブな、例えば紹介状が必要だからというのは、行きたいけど紹介状がないとか行きたいけど7,000円近くかかってしまうという、初診料がかかってしまうという意味かもしれませんしというところで、この変化を見るには全て入れておくほうがいいと思います。

●中嶋委員長 分かりました。確かにおっしゃるように、捉え方の問題はあると思うんですけど、建て替わった後にアンケートして、建物が古いからと言われたらどうしようもないのは事実なので、その辺は恐らく言われるように状況に応じて把握すべきことが変わる可能性もありますし、見方を変えれば、建物が新しくなったのに建物が古いからという答えが多いということは、建て替わったことが知られていないということでもあると思いますので、そういう意味では経年で見ていくという前提でまた議論が必要なのかなとは思いましたので、ちょっと建物に関してのというところは今日は一旦お預かりをさせていただくということにいたしまして、ちょっと今後の中で、今言っていただいたように、この項目自体が時勢的にどうあるべきかということはまた議論させていただきたいと思います。

では、ほかどうでしょうか。もう残りちょっとですが。あと、意見があるのは46と47ですので、46、47は何かございますか。

どうぞ。

●浦川委員 追加でちょっと40番の藤田委員の言っている設備が充実していないの設備は何かというのも聞きたいというのと、46、47も今ですか。46に関しては、私は二次救急病院なので要らない質問じゃないかなと思ったので削除で出しました。

あとは、47に関しては自由記述のほうがもっといいかなと思いますし、自由記述の場合でも定量的評価というのが項目ごとにできるアンケート集計のや

り方があるので、そういう形で項目出しというか、どこに回答された人たちの自由記述の項目が立っているかなというのは、それを分析する方法もあるので問47を自由記述にしたらいんじゃないかなというふうに書いたのと、もし選択肢にするのであれば、この6項目よりももっと具体的な、多言語対応とか在宅復帰や退院後の連携先があるとかのほうがいいのかなと思ったので、項目の変更を提案しました。

●中嶋委員長 40は何でしたっけ。

●藤田委員 僕が答えるか。

●浦川委員 はい、設備。

●藤田委員 設備って、全ての設備です。だから、医療機器もそうですし、ご指摘されているエアコンもそうですし、ベッドや椅子もそうなんですけれども、これが新病院に建て替わることによってその設備の項目がどう変わっていくかというのは僕はやっぱり見ていくべきやと思うんで、そういう意味で全ての意味の設備ということで提案をさせていただきました。

●浦川委員 今お答えいただいたんですけど、エアコンとか、ベッドはそうでもないと思うんですけど、医療機器に関しては一応北摂では、ダビンチの一番最新のものとかもこの前入れてはったと思うので、医療機器は全部新しいんじゃないかなと思ったので、もし設備とやれるんだったら、医療機器と建屋の設備というか、患者さんが関わる設備に。

●藤田委員 冒頭の話に戻るんですが、具体的にどれを指すというのを僕はこの回答で期待しているのではなくて、流れがどう変わっていくかというのを見ていきたいと思っているんで、特にこれは旧病院の、現病院から始める話なんで、そこで新しく病院が変わることによって、行かれていない方の意識がどう変わったのかというのは僕はすごく関心、興味があるんで、そこについての意味なんで、現在どうかというよりは、むしろどういう流れになっていくかというのを見ていきたいなというふうに思っていましたんで、そういう提案をさせていただきました。

●中嶋委員長 ありがとうございます。

設備という意味合いは、何が設備なのかは主観的

な問いではあると。ただ、そもそも利用されたことがない人に聞いているので、医療機器がいいということを当然そんなには知らないであろうし、そういう前提の方に聞く質問だからという、特に傾向的に見ていく必要があるというご意見だったと思いますが、私の趣旨もそのとおりですので、建物が古いという言葉遣いが悪かったのは申し訳なかったとおもいますが、そういう意味で一旦40番についてはお預かりをさせていただきます。

先ほどの47番のところでしたかね、最後。ちょっと僕が理解できなかったのは、自由記述にすることで集計上のやり方があるというのは、何か、ごめんなさい、もう少し説明をいただけたらありがたいなと思うんですけど。

●浦川委員 今おっしゃっていただいたのは、47の自由記述で出す方法があるという……。

●中嶋委員長 さっきのは何でしたっけ。

●浦川委員 46番はそもそも要らないんじゃないかということと、47番は自由記述にしても、自由記述から抽出する方法があるので別に選択肢じゃなくてもいいんじゃないかと思ったんですが、もし選択肢でするんだったらこの内容も入れてほしいなという部分を羅列しましたという説明でした。

●中嶋委員長 そういう意味ですね、分かりました。

一つは抽出の順番の問題だとかご指摘だったんですけど、基本は先ほどから何回も言っているように、傾向から個別の課題を抽出するというのが基本の流れですので、それに基づいてまずは選択肢があって、傾向上、突出したものの中の個別具体の課題は、必要があれば深掘りすることかなと思っています。

項目については、ちょっとここはいろんな要素が含まれるなど、より幅広い要素が含まれるので、選択肢を増やすにしても傾向性の域は出ないかなと思っています。そのため、基本はその他という項目があるので、お答えいただいた方がこれにない項目を書きたいという場合は自由記述のその他で書いていただくということが前提になっておりますので、そういう理解をいただけたらありがたいなと思います。

選択肢としては出てこないですけど、その他は基本自由記述ですので、書きたいものがあれば書いていただけるという前提にはなっております。なので、全ての選択肢をなくして自由記述というのは、あんまりいい方法ではないかなというふうにまず思います。

その上で、この選択肢にして自由記述にするのか、自由記述じゃなく細かい選択肢を置くのかということが今選択肢かなと思っているんですが、そういう理解で合っていますか。はい。というご意見でございました。

46は要らないということであるんですけども、これは直接市立病院のことを聞いているわけではないので、市立病院にかかったことがない方が医療機関を選ぶ際にどういうポイントで選んでいるのかということを知っています。これはかかったことがある方には何でかかったのかということを知っているのと同種の質問なので、かかったことがない方が医療機関を選ぶポイントを知っているという理解をいただけたらと思うので、個人的には要らないまでは言えないかなという気はしています。ということですが、何かご意見ございますか。

どうぞ。

●浦川委員 今の話だと、この前の説明でも幅広い医療機関という話だったんですけど、このアンケートは市立病院に係ることやから、医療機関、クリニック含む部分の設問は要らないんじゃないかなということが意見です。

なので、二次救急とか大きい病院とか7,700円払ったり紹介状を得て行くような病院のことを聞いているので、幅広くじゃなくて絞った意味で聞いたほうがいいんじゃないかなと思ったので、削除でどうですかとご提案しました。

●中嶋委員長 どうぞ。

●山根委員 46番は市立病院に限らず、さて病院を選ぶときにという一般的な話と私は見ているんですけども、なので、これを市立病院に置き換えるか置き換ええないかというのはまた別の話で、皆さんの意識はどうなのかな程度だと思うんですけども。

それともう一つは、47に関しては、ファーストアクションとして市立病院を選ぼうって思えるにはどうすればいいですかという、これは新しく建て替わるに当たり検討しやすい材料が5つ並んでいると思うんです。アクセスはちょっと難しいですけども、市立病院をまず初めに選んでいただくにはという設問で、46は一般的にという、全然分けて考える話かなというふうに思うんですけども。

●浦川委員 すみません、箕面市にどんな病院が欲しいですかという場合だったらこの質問はいいと思うんですけど、箕面市立病院のアンケートにこれ要るかなという趣旨で、要らないんじゃないですかということを行いました。

●中嶋委員長 もう一度整理しますと、まずこの設問は、市立病院にかかったことがない人に対して問うている問いです。例えば協和会さんがアンケートをする場合を仮に想定した場合は、当然かかったことがある人に限定したアンケートになると思います。ただ、我々のスタンスとしては、当然税金を投入して運営されている病院になりますので、指定管理であったとしても、です。ので、当然使われる方だけではなく、広く市民の方に病院がどうあるべきか、どういう運営をされるべきか、どう評価をされているかということ把握すべきかなというふうに思っていますというのがこの間説明させていただいた趣旨です。ので、今回のアンケートは使ったことない人も対象にしますよということを想定した質問になります。

です。ので、それも踏まえた上で、46だけではないんですけども、その前提での質問なので、ちょっと確かにファジーな部分は多いと。素直に市立病院に対しての質問をしているわけではないということのファジーさはあるんですけども、その上で46の問いを説明するならば、市立病院にかかったことがないという人ではあるけども、その方がそもそも医療機関を選ぶ際にどういうことをポイントにしているのかということを知っているということですので、もちろん絶対要るかと言われたらば、絶対性がそんなにあるわけではないんですけども、別に含めておい

てもいい質問ではあるのかなというのがまず基本的な認識です。ご理解いただけましたでしょうか。

だから、絶対消せと言われたら別に、ずっと消しますが。絶対入れろというほどの質問でも確かにないなとは思いますが。ただ、せっかく聞くので、行ったことのない方がどういうポイントで選んでいるのかということは聞けたらいいかなという程度です。ので、浦川委員が言うように、市立病院に対しての質問ではないという前提でご理解いただけたらと思います。

47はもうこれでいいですか。特にご意見ございませんか。

では、ごめんなさい、最後、ご意見・ご要望（任意・自由記述）のところですが、1点だけ、住所表記はなしでいいというご意見ですが、住所はあったほうがいい、よかったつけ。よかったよね。一応前回は聞いているということと、念のためという意味合いだけを説明しますと、先ほどから言っているように、深掘りをする可能性があるんですね。それに当たって、お電話番号とメールアドレスはお聞きます。なので、第一優先としてはメール、そのメールがもし間違っていた場合は電話でアクセスを、深掘りの場合に答えていただいた方にすることというのが可能性の前提になっていますので、どっちも間違えることはないとは思いますが、できるだけ後追いの場合のアクセス性を担保しておきたいという程度のもものではございます。という前提で、住所が要るかということとはご判断いただけたらと思います。これ、最悪なくても困らない。困るか。

●議会事務局 深掘りするときに今言ったようなことが、電話かメールで連絡が取れるような状況の方なのであれば、なくても。

●中嶋委員長 一応念のためではあるんですけど、例えば100人仮に連絡先を書いていたとして、何人かの方が連絡先の書き間違いがあってアクセスができなかったということは可能性としてはあり得ますし、それを絶対に避けないといけないうことかというと、別にそこまでのものではなく、残念ながら今回のアンケートではちょっと連絡先が不通

だったので、後追いが生じたときにアクセスができませんでしたというだけの話ではあるので、100人中100人が間違えましたみたいなことはないと思うので。その程度の認識としてご住所は要らないんじゃないかということであれば、別に削ってもいいかなとは思いますが。

（「任意」と呼ぶ者あり）

任意にしましょうか。

●山根委員 ご協力いただける方はって書いているので、嫌な方は書かないと思いますし。

●中嶋委員長 そうですね、その前提ではあります。

●山根委員 嫌な方は全部書かないかもしれませんが、住所だけは嫌やという人がいてはるかな。

●中嶋委員長 そうですね、じゃあメールアドレスとお電話番号は必須にさせていただいて、ご住所は任意ぐらいにしておきましょうか。でもよろしいですか、その程度であれば。

一応書いてもいいよという方は……。そういう意味で、任意やったっけ。ごめん、ちょっと。

●議会事務局 すみません、（6）番はこの項目全て、4項目ともがこれ任意にかかっているんで。

●中嶋委員長 全部任意だと、ごめんなさい、僕が勘違いしていました。失礼しました。

なので、任意という前提じゃあもう入れとかうかという感じでしたね。ごめんなさい、ちょっと僕が勘違いしていました。ちょっとそろそろ頭が回らなくなってきました。

ということで、一応意見集約としては、任意なのでそのままでいいというご意見だと理解をしました。

それでは、一応これでざっとアンケート項目についての意見集約の補足という形で意見交換をしていただきましたので、一旦私が預かったところを除きまして、これでアンケートのほうは意見集約とさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

●中嶋委員長 ありがとうございます。長時間お付き合いをいただきまして、大変ありがとうございます。

それでは、今日お預かりした点は再考させていた

だきまして、次回の会議までに最終のものを皆さんのほうにまた送付させていただきますので、修正結果につきましてはそれでご確認をいただきたいと思います。

本日の意見集約としては以上とさせていただきます。

続きまして、次の議題に行きますが、アンケートの配布及び周知方法についてを今日意見集約させていただきたいと思っております。

前回、口頭で私のほうから、こういうパターンをイメージしていますということを言わせていただきましたので、それをちゃんと紙に落としました。前回との変更点ということで横に並列にさせていただきました。緑の点が変更の点として今想定しているものになります。

選んでいただくのは大きく2点のどちらかということになりますが、改めてご説明をしますと、まずはL o G oフォームでの回答を周知するものということで、箕面市議会のホームページ、それから箕面くらしナビ、それから紙のQRコード、紙でまくものに記載されているQRコードということが前回と同様の手法です。今回は変更点として、病院のほうに過去は紙のアンケートボックスを設置していたんですけども、こちらのほうをできたら紙ではない形に変えたいなと思っております、その場合の変更として、市立病院内はもとより、各種公共施設等を含む広い範囲に議会のアンケートをしているということが分かるポスター的なもの、当然そこにQRコードとして読み込める記載がありまして、そこからスマホ等で読み込んでいただくとご回答いただけるという形に変えさせていただきたいというのがまず案の1でございます。

それから、案の2が紙のアンケートでの回答を依頼ということで、前回同様、70歳以上の市民の方を無作為抽出して、200名の方に紙のアンケートを郵送するというのが1案。

もう一案は、これは皆様のご意見によりというところなんです、前も言いましたが、できるだけ紙を減らしたいというのが基本的な考え方です。そ

れは集計上の話もそうですし、お答えいただく手間的にもという意味合いも含めてになるんですが、そのときに200人の方への郵送をどうするかというパターンとしては、QRコード付きのチラシ型のものを郵送で送ると。この場合の意味合いは、あなたはアンケートの対象者なんですよということを直接的にお知らせをするという機能をつけた紙のアンケートではないアンケートをするという形が代替案としてはありますが、それはちょっとということであれば、前回同様、紙のものを同封するというパターンと2種類想定をしておりますということで、今回のアンケートの配布、周知について、皆さんのご意見をいただけたらということでございます。何となく、説明はまず分かっていただけでしたか。意味合いとしては。

では、一応どうでしょうか、今回の案として今お示しをさせていただきまして、一応案1と案2で選んでいただかないといけないこともあるんですけども、皆さんがそれぞれどちらをお望みかということで決めたいと思っておりますが。

僕が決めていいのであればもう紙はやめますが、そんなことはできませんので、皆さんのご意見で決めたいと思います。

どうぞ。

●金森委員 前回のことを思い出すと、おっしゃっていたみたいに病院に前回のアンケートは手書きの紙のアンケートを設置していたけれども、今回は紙で手書きでは設置せずに、院内、公共施設にQRコードのついたポスターを掲示して、全員スマホなりなんなりでやるということですよ。

ちょっと私自身、病院の利用している年齢層というのをきちんと把握していないんですけども、私自身そんなに市立病院に、今のところ健康ですのかかっておりませんし、皆さんの年齢でもきっと、定期的にね、かかっておられる方って、お子さんが小さい方とか、うちもそうなんですが高齢者の介護があって一緒に行くってことはあるかなと思っていて、そう考えたら、利用者というのは若い世代、小さい子どもがいる世帯、もしくはうんと高齢者か

なというふうに考えたときに、若い方はQRコードでも、待ち時間にでもびびって答えられる。そのポスターが貼ってあるという利便性はあると思うんですけども、片や高齢者の方って、うまく使いこなしている方はいらっしゃると思うんですけど、すごく少ないなと思うんです。そう思ったら、利用されている方のご意見を広く把握するという意味では紙は必要かなと思いますし、答えたいと思ったときに答えられないという、市民の方の思いを直接届けたいと思うのができないというのはちょっといかなものかなと思うので、紙は残したほうがいいんじゃないかな、病院に設置する紙は置いていたほうがいいんじゃないかなというふうに思っています。

あと、70歳以上の方を無作為に抽出してって書いているんですけど、これもさっき言っていたように、みんながみんなできるわけじゃなくて、送りたい、答えたい、でもできないってなったときに、それができないということは市民の声を届けたり意見を述べる機会がなくなってしまうので、やっぱり紙は残していただきたいなというふうに思っています。

●中嶋委員長 ほかの皆さんはどうでしょうか。

●田中委員 多分、病院なんですけど、前回紙のアンケートを置いた場所に今回置けるかなというのはちょっと思います。何か指定管理になったからという言い方もちょっと変ですけど、会計とかあの辺のところの窓際のほうに前回置いていたと思うんですけど、多分そこは椅子も増えたりとかしてあって、ちょっと物理的に置くのも難しいんじゃないかなというように気もします。置いて置けないことはないと思うんですが、何か逆に隅っこのほうになってしまうとか、何かそういうような気もしますので、何か置くにしても本当に置き場所あるのかどうかというところはちょっと確認が必要なのかなと思います。ちょっと私が見た限りでは、多分前回と同じところにはちょっと置けないんじゃないかなというように気もします。ちょっと私もおぼろげな頭の中の覚えで言っているものであれですけど。

●中嶋委員長 ほかの皆さんはどうでしょうか。ざっくばらんに聞かせてください、まずは。

どうぞ。

●山根委員 金森委員がおっしゃるのは、2番のほうの話。

●金森委員 どっちも。

●中嶋委員長 どっちもですね。

●山根委員 どっちも。この緑の新しい案ではない、前の令和6年度のは、どういう言い方したらいいか、何が言いたいかと申しますと、紙で返送してもらう、紙アンケートで書いてもらうというのと全てQRコードにした場合と、その回収数であったり回収率がそんなに変わるかなという気もするんですね。②の郵送での200人抽出というところで、14万人中の200人の回答率がQRコードだったらどうで、紙での返送だったら、紙での返送がとても多いという誤差が14万人に対してどうなのかなって思うと、それに対して200人に全て返信用封筒を入れて紙を入れてという費用対効果も考えると、全てQRコードでいいのではないかと思うんですけども、これは今ちょっとジャストアイデアで申し訳ないんですけども、例えば、郵送で抽出されて家に届いたと。でもQRコードできない。でもどうしても答えたいんだという方のためのお問合せ先というのが可能なかどうかというのは、ちょっと今思いつきで申し訳ないんですけども。

●中嶋委員長 先に問合せ先の話をししますと、前回お話しさせていただいたんですが、今回からお問合せフォームにお問合せは統一させていただきますので、問合せフォームを使える場合はお問合せをいただけます。もしくは、議会にかけたらいんだなというふうに認識していただいた方は、それがあったとしても電話をいただくこともできますので、十分という言い方、言い方が難しいけど、ご連絡を全くいただけないということではまずないということかなというふうに思っています。

今のアイデアも含めてちょっと補足をさせていただきますと、確かに紙では書けないという方はいらっしゃると思います、世の中には。ただ、幾つか紙のアンケートでないとアンケートに答えられないという方は、特に高齢者層に一定数はいらっしゃるん

いうふうには思います。ただ、事実を申し上げておきますと、以前やりました定数、報酬のアンケート結果を見ますと、L o G o フォームで回答いただきました大体700人ぐらいの内訳は、20代から80代まで全て均等な割合でL o G o フォームでお答えをいただいております。ですので、L o G o フォームだから答えられないということではまず事実上ないということが一つ前提になっています。でも、その半面、今言ったように、でも書けない人もいるということも事実ですってなったときに、じゃあ今回のアンケートがそういう人たち、書けないという人たちにどこまでおもんばかるべきなのかということが選択肢になると思うんですけども、僕の考え方としては、そもそも書けない人たち一人一人を全て拾うためのアンケートの優先順位ではないと。あくまで傾向把握をするアンケートですので、傾向は、基本的には人口規模がどうあったとしても、大体2,000サンプルぐらいあれば統計上は把握できるというのが一般的なアンケート手法の中で言われていることだと思いますので、できれば今回、前回よりもさらにサンプル数を増やしたいということがポスター型で広く周知をした上でお答えいただける方を増やしたいということの趣旨です。

あわせて、より広くやるということになれば当然事務作業の効率化も必要になってきますので、それを見越した場合、できるだけ紙はなくしていきたいというのが基本的な考え方ではありますので、もちろん書けない人がいるじゃないかと、そういう人の意見をどうするんだというご意見もごもっとも、正論だと思いますが、今回のアンケート趣旨とかアンケートとしてめざすところに関してという意味合いでいうと、必ずしも優先順位が高いわけではないというふうに判断してこの案を提案させていただいておりますのでということと、事実ベースとして80代以上の方が答えられないということは決してないということも判断には入っているということで、個別の人の話をし出せば、もちろんこの人書けないよねみたいな話は当然あろうかと思います。なので、もしどうしても書きたいという方がいらっしゃるん

であれば、それぞれの議員さんがフォローしてL o G oフォームで入力していただいたらいいんじゃないかと僕は思います。ということも含めてのご提案です。

どうぞ。

●藤田委員 病院のほうは自らの意思でアンケートに答えてくれるんで、僕はL o G oフォームでもいいのかなと思うんですが、200人抽出のほうはこっちから依頼をしているほうなんで、それでこれで答えられへんやんけという人に対しては、ちょっと僕はそれは失礼に当たるんちゃうかなというふうに思いますんで、200人のほうは選択できるような形にするほうがいいのかなというのは僕の意見でございます。

●中嶋委員長 ありがとうございます。

ごめんなさい、言い忘れましたが、だから抽出もやめたい、そもそも論でいうと。ただ、抽出してくれというのが前回ご意見としてはあったので、一応提案には含めているということです。

●藤田委員 これ抽出しなかったら、市立病院を利用したことがない人というところのアンケートはほぼ回答なしという感じになっちゃうんですか。

●中嶋委員長 いや、別に抽出自体も使った方かどうかを別に抽出しているわけではないので、もともとなぜ抽出を入れたかという、一番初めにやったアンケートをやるときに、要するに傾向を見ると、市民の方がどこに評価基準を置いているのかという傾向を見るということに対して、アンケートをL o G oフォームでやった場合に年齢的な偏りが出る可能性が否定し切れなかったんで、紙の郵送をプラスアルファしたと。ただ、今回のアンケートの、もうちょっと分析をきちっとするという意味合いでいうと、恐らく200通郵送した分の100件が含まれたとしても、サンプル数的に見て傾向性に偏りは出なかったというのが結論の一つだと思っていますので、個別正論はよく分かるんですけども、アンケートとして得たい結果という意味合いでいうと必ずしもそうではないということはイメージの中にはあるので、個人的意見を言われると郵送はやめたいし、200人

の抽出もやめて、より広く掲示型でいろんな方に答えていただくということを追求して、できれば2,000サンプルぐらいが集められるような環境をつくりたいというのが個人的な意見ではあります。

ただ、皆さんのご意見も踏まえて決めるべきだというふうに思っていますので、一応落としどころを先に言っておきますと、今回200人の郵送をやるのであれば、藤田委員が言われるように、頼んでんのに書けへんのかよみたいなのは確かに失礼に当たるので、抽出のアンケートについては紙でやろうというふうには思っています、抽出をやるのであれば。ただし、病院のほうについては、先ほどの田中委員から出たように病院との調整も出てきますので、できましたらもう紙の設置というのはやめたいなということを一応落としどころとしてはイメージした上でこの変更点を案として出させていただいておりますので、その前提で考えていただけたらと思います。大丈夫ですか。

どうぞ。

●山根委員 これは「もみじだより」には載らないんですか。

●中嶋委員長 「もみじだより」にも調整ができるなら載せていただこうかなって思っていますが、ちょっとタイミング的に、一応4月スタートを予定しているんですけど、4月の「もみじだより」に載せようと思ったら2月末にはご案内を出さないといけないので、タイミング的にいうとむしろ議会だよりのほうがいいのかなという気はしていますが。

●議会事務局 議会だよりの2月15日の次が次回から6月1日に変わりますので、ちょっと載せる時期としては、「もみじだより」もさらに何か早くに決めてしまわないと駄目というところもありますのと、あと、すみません、ちょっと先ほどから高齢者の方のL o G oフォーム回答のお話ということで申し上げますと、委員長もおっしゃったように、定数、報酬はおっしゃるように20代から80代の方の広い回答があった中で、60歳以上の方でも40%ぐらいはL o G oフォームでの回答をいただいたという経過がまず一つございます。それがどうこうではないんで

すけれども。今回でいいですと、前回このアンケートのほうですね、市立病院のほうにボックスを設置しましてするやり方を市立病院内と公共施設内には掲示したポスターという提案で今進めているところなんですけれども、ちょっと設問のほうに一つ、すみません、今さらながらですけど、このアンケートをどこで知りましたかというのも一つ入れてみるというところでのあえての公共施設内でのポスター掲示というのも一つあってもいいのかなというようなことをちょっと、すみません、何か事務局の提案みたいになっているんですけれども。

●中嶋委員長 最終的な手法に応じて若干連動する設問が出てくるということは理解していますので、最終案としてはそれも含めておきたいと思いますが、取りあえずそれも含めて、今、手法をある程度決めたいなとは思っているんですけども。

●議会事務局 あと、郵送200人抽出のほうの話ですね。2番のほうの70歳以上の市民の無作為抽出で、200人に郵送してQRコードを掲載する。この郵便をもらった方というのは、もし案2の場合になりますと紙でも回答ができる。もしくは、冒頭で提案した表紙にはQRコードが載っていますので、スマートフォンとかで回答できる方というのはQRコードで読み取っての回答となる中で、投げた200人のうち、LOGOフォームで回答した人が何人いるかというふうに取ることはできますので、それでちょっと傾向を探ってもらって次回以降の参考にしましょう。そこで一定の数が出れば、次回以降は今委員長お話があったような手法もまた皆さんでご検討いただいたらどうかとは思いますが、ちょっと頑張ればできると思うので、紙アンケートでもそういう分け方は可能ですということはちょっとお伝えしておきます。

●中嶋委員長 LOGOフォームでの回答がどの程度可能なかということは、やり方によっては把握することはできる。検証ですね、検証することはできるという形です。

どうぞ。

●浦川委員 すみません、送った人のLOGOフォ

ームか手書きかは検証できるということで、例えば病院に紙で置いた場合も、何か連番とかをつけといったら検証とかできたりとかするのはないということですね。例えば、アンケート用紙の番号を入れてくださいみたいなのをしておいたらできたりとかしないのかなと思ひまして。意味分かりますかね。病院に1から100置いていて、回答欄に手書きの人はそのまま入れたら1って入っていて、LOGOフォームの場合はアンケート番号入れてくださいみたいながあれば。

●中嶋委員長 ちょっと技術的にできるかどうか確認が要るので、今日の時点としてはできる可能性はあると思いますぐらいのお答えになるかな。

●議会事務局 ごめんなさい、恐らく今おっしゃっていたのが、さっきちょっと事務局で言った、設問の中にどれで知ったかというのを入れてもらって、例えば市立病院のポスターとか、そういうのを選んでもらったら、例えば仮に病院に紙を置いたとしたら、病院の紙みたいなのを言ってもらったら集約できるので、連番を振るとかまではしなくてできるかと思います。

●中嶋委員長 ごめん、僕がちょっと勘違いしていました。今言っていたいただいたことの把握はもともとしようと思っていたんです。紙であれLOGOフォームであれ、どこを経由して答えていただいたかということは把握をしようと思ひてまして、それは先ほど言ったQRコードを分けてLOGOフォームを把握するという方法もあるし、設問上、何から知り得たかということで把握する方法もあるんですけど、後の取扱いがどっちが楽なのかということとはちょっと技術的に考える必要があるので、今日のご説明としては把握はできる限りしようと思ひています。そのやり方は最終の選択肢によって微調整しますということで、今言ったように、病院に来られた方がどれを経由でお答えいただいたのか、もしくは郵送の方がどちらをお答えいただいているのか、もしくは箕面くらしナビとかいろんな、どこで知って、どこを経由して答えていただいているのかということとは後で分析できるように最大限把握したいなとい

うふうに思っています。

●浦川委員 すみません、続きなんですけど、私は紙って、前回のボックスが病院のどこに置かれていたかはちょっと把握していないんですけれども、あゆみ文庫とか、入ったところの何か文庫のほうとか受付の、こっちですって案内する人とか再来機の横とか植物の横とか、置けそうなところは幾つかあるなと思っているので、ポスターを否定はしないんですよ。ポスターあったら回答数が増えるからいいなとは思んですけど、ボックスも一部置いて、さっきの郵送の200人抽出と一緒に感じで、紙でどれぐらいの回収があって、案外みんなどこでも行けるじゃないという傾向をつかんだほうが、広く市民の人に毎年このアンケートするんですよとか、病院利用者の人に広くこのアンケートは毎年するんですよというのも伝わるし、紙へのアクセスがしやすい人と携帯とかでやるのができる人というのが公平にタイミングが合っているのかなというのと、何歳ぐらいで、病院のこれぐらいの年齢の人もL o G o使っているじゃないというのが分かったら、経費とか資源削減のためにこうした方がいいんじゃないかという考えの傾向にもなるから、何回かは紙でやられたほうがいいんじゃないかなと思いますし、前回の委員会のときにも言いましたけど、市のアンケートでも、L o G oじゃ無理だから印刷して出した人とかもおられるというふうに聞いているので、そういう形も許容するというか受け取りますよみたいなところは大事なところじゃないかなと思いました。

●中嶋委員長 ありがとうございます。

その意見は、先ほどからも委員からも出していたし、誰も別に否定はしていないというのがまず大前提だと思うんですけど、今言われた理屈が適用される範囲は、僕は200人の郵送に限った話だと思うんですね。200人の郵送の中で傾向的な変化を見るということはよく分かりますが、そこは今回は、言うみたいに、200人のアンケートに関してはいきなりむちゃ言うなということであれば紙のアンケートを基本郵送し、そこについてあるQRコードからお答えはいただけるという形を取るというのが落と

しどころかなというふうに思っています。

ただ、病院のほうは、そういう意味では前回との比較は並行でやってもあんまり意味がないので、前回紙でやったということと今回L o G oフォームのみでやったということの差をやっぱり見るべき、見たほうが分かりやすいかなと。そのことで単純にお答えいただいている年齢層であったりとか、お答えの数がどう変わるのかということを見るほうが比較になりますので、そういう意味で、まず病院のほうの紙設置を今回はやらないというのは、そういう意図になっています。

かつ、今回はある種実験的な期間だと思っているので、いろいろやり方をちょっと試してみた結果、こっちでのほうがいいよねということであれば、次回に向けてやり方の改善は当然していくという前提ですので、そういう意味でいうと、何でもマックスで試すということは避けたい。より効果的に比較検討したいということも含まれていますので、今回はどちらかという対象をより広げてサンプル数を集めるということに力を置きたいと。そのためには紙で広げるということは物理的に無理なので、L o G oフォームをできるだけ広げるということに注力したいというのが趣旨でございます。

どうぞ。

●金森委員 分かりました。ありがとうございます。サンプルを集めたいということでQRコードで広げていくということなんですけれども……。

●中嶋委員長 集まるかどうか分かりませんが、L o G oフォームでやっても集まらなかったら。

●金森委員 やってみてどういう結果が出るのかわからないんですけれども、やってみて紙も今後復活もなきにしもあらずという理解でいいですね。

●中嶋委員長 もちろんL o G oフォームでめざした結果が出なければ当然サンプル数をどう増やしていくのかというのは違う手段を考えないといけないので、例えば今言っている病院の比較として、前回紙でやったのと、L o G oフォームだけにしたら全然集まらなかったわみたいなことになれば、やっぱり病院は紙じゃないと駄目ですねということになる

と思っていますので、そういう意味で第1回目という意味合いだし、第2回目という意味合いなので、まだ比較検討する段階かなということをしてできるだけ効果的にやりたいなと。全部マックスでやっちゃうと大変なので、できるだけ効果的にやりたいという中の選択肢として、病院のほうは紙なし、郵送のほうは紙でということが一番皆さんにご納得いただける範囲かなというふうに思っています。

何回も言いますが、僕が決めていいなら全部紙はやめます。という僕は意見ではありますので、それはさっき言ったようにアンケートの趣旨とかめざすところの問題なので、紙で書きたい人、書けない人がいるということを否定しているわけではありませんが、そういう前提で考えていますということです。

●浦川委員 すみません、抽出の200人の人は今の話だったら紙で来ると思うんですけど、例えばホームページから見たけどL o G oフォームできないから印刷して出すわという場合とかは、受け取りは可能なんですか。

●中嶋委員長 受け取りは可能ですか。

●議会事務局 いえ、ホームページにはL o G oフォームのURLしか出しませんので、ちょっとホームページとか箕面くらしナビは、もう基本L o G oフォーム前提となっております。それは前回も同じだったと思います。

●中嶋委員長 ある意味でいうと、今回L o G oフォーム寄りに仮にしたとして、どのぐらい紙で書きたかったのに書けなかったじゃないか、出せなかったじゃないかということが、お声がいただけるかどうかもしそれは一つのやり方に対しての評価だと思いますので、そういう声が出てくることを恐れて手法を判断しているわけではないというふうにはご理解いただきたい。あくまで効果的な方法を探る段階の中で、比較検討としてマックスにはできないので、今回の選択肢がどうあるべきかということを考えているという。

●浦川委員 すみません、部署が違うんですけど、みどりの基本計画の何かアンケートだったら、部署

のほうに行って、L o G oできないけど答えたいから印刷してくださいみたいなので、カウンターで印刷してもらって書いて出したという人が何人かいるんですけど、例えば誰か第三者に印刷してもらったのを持ってきたわとか送ってきたわというのは受け取られるのか受け取らないのかという点は、どんな感じで想定していますか。

●中嶋委員長 誰かにもらったやつを受け取るわという可能性あるのは、恐らく今の案でいうと、郵送の方に送った分をコピーするしか多分方法がないと思うので……。

(「L o G oフォーム印刷できないんですか」と呼ぶ者あり)

L o G oフォームを印刷してうまく出るんやっつけ、あれ。ちょっと試していないんで、ごめんなさい、分かんない。L o G oフォームを単純に印刷して、質問が飛ばずに出てくるのであれば、その可能性はあるかなというふうに思いますけど、出てくるのかな、あれ全部。

●議会事務局 ちょっと前回のアンケートではそういう例が、でも例がなかったから今回もないかという話はちょっとあれですけど、前回はちょっとそういう例はなかったですし……。

●中嶋委員長 設問が飛ぶ場面があるので、ちゃんと正確には恐らく出てこないんで、L o G oフォームを単純に印刷するだけでは紙のアンケートと同等にはならないという理解をしていますので、それを持って届けに来る可能性があるのは、郵送の方に届いたアンケートをコピーして共有された場合はそういう可能性があるかもしれませんが、それをやられるんやったら郵送のやつに全部それ入れてもらって送ってもらうぐらいしかないんじゃないかなという気がしますけど、それをわざわざ事務局に持ってきていただくということが可能性としてももちろんゼロではないかもしれませんが、これは僕の独断という勝手な意見ですけども、持ってこられたものを受け取らないということはさすがにないとは思いますが事務局がどういうスタンスかはちょっと一旦置いといたとして、私の立場として、市民の方が何かしら

の方法で手に入れたアンケートを持ってこられたものの受け取りを拒否するということは当然あり得ないというふうに思いますが、ただそれを推奨しているわけではないということでもあるので、今のところ起こり得ない可能性のほうが近いので、あんまり想定はしていませんというのが回答になるかなとは思いますが。

●議会事務局 すみません、繰り返しになりますが、ホームページと箕面くらしナビのほうでは、今はQRコードもしくはURLの掲載でLOGOフォーム回答しか想定していない中で、おっしゃるように郵便で、もう今は何か紙アンケートをまず配らなアカンような感じで案2のほうにちょっとなりそうな感じで、返信用封筒付きの案2のほうになりそうな話に今なっているわけですがけれども、じゃあそれを仮にコピーをしてとか、場合によったら返信用封筒を持っていたり市役所来るついでがあったから持ってこられましたとかいうような来庁者の方がいらっしやったら、我々も一々200人の人かどうかというような見方もしませんし、窓口に来られた方がどなたかというようなこともあえてお聞きすることはせずに受け取ることはなるかと思いますが、恐らく郵便で送った人が持ってきてくれたんやろうなという認識にはなると思います。

●中嶋委員長 認識で受け取る。

●議会事務局 そういうことです。

●中嶋委員長 なので、受け取り拒否が起こるという可能性は限りなくゼロだと思いますけど、手法として推奨しているわけではないので、この場でそれがいいんですかと聞かれると答えにくいということかなと思います。

●浦川委員 さっき山根委員が、お問合せフォームとか議会のほうに事務局のほうに電話かけるというパターンで、例えばまちなかにポスターが貼ってあって、見たけどLOGOフォームできないってなって、答えたいんだけどLOGOフォームできないからどうしたらいいですかって問合せがあった場合は、紙を渡したりすることもあるんですか。紙で答えたいんだというふうにおっしゃられたら、紙を渡すと

いうことは可能というか、してもらえますかと言ったほうがいい。何と言えいいか、できないとかはちょっとないかなとは思いますが、その場合はどうされますかという。

●中嶋委員長 その場合は評価委員会の委員さんにおつなぎしますので、LOGOフォームでの入力を手伝ってあげてください。

●藤田委員 仮定の話をするとき限がないんで、そのときあったときにどうするかというのをまた委員長含めて議論したらいいんじゃないかなと思いますよ。

●中嶋委員長 ごめんなさい、まず手法論を言うと、例外をつくれればつくるほど決めたルールが守られなくなっていくので、そういう意味で、今言ったように紙を今の通常のルール外で持ってくるということはできるだけ差し挟まないというのが原則だと思います。

ということは、LOGOフォームが打てないという方に対しては、LOGOフォームでの入力をサポートするというのを考えないといけない。当然、例えば病院で誰か手空きのスタッフがいたときに問い合わせられて、じゃあ一緒にやりましょうかみたいなことは起こり得るかもしれない。直接、事務局に来られて問合せをするということも起こり得るかもしれないですけども、それを事務局に来たら事務局がやってねということには当然ならないので、今言ったみたいに、そこまで求められるのであれば、そういう問合せで来庁された方に対して我々の側がじゃあそれをサポートしますよというのが本来の考え方ではないかなというふうに思いますので、それが事務局にできないからじゃあ紙をとということもまた違うというふうに思いますが、どうですか、皆さんのご意見は。

●議会事務局 ケース・バイ・ケースだとは思いますが、当然市民の方の事務局に来ることが想定される中では、なかなかちょっと我々事務局の独断で紙がいいのか、じゃあQRコードのサポートがいいのかというようなことはちょっとあるかと思っていますので、その都度、その時点でいらっしやる委

員長はじめ皆さんにちょっとご相談させていただいて、臨機な対応になるかもしれませんが対応させていただこうかなというところで、ちょっと現時点ではこの想定しか今は考えていないというところが今日の会議の中での話かなとは思っております。

●中嶋委員長 当然、そこまで言いましたので、僕自身はたまたま自分が来庁しているタイミングでそういう問合せであったりとか来庁されている方がいたらそういうふうに対応しようと思っておりますので、それは当然委員の皆さんにも同じスタンスでいてほしいなというふうに思いますし、それができないからといって違う手法を考えるという前提にはないということは、改めてお願いしておきたいと思います。

では、一応ご意見についてはいろいろいただいたということで、意見集約をさせていただくでよろしいですか。ちょっと今日最低限決めておきたいのは、無作為抽出をするかどうかだけ、ちょっと先に理事者との調整がありますので、それだけは最終、最悪、意見集約をさせていただきたいなと思っておりますが、できたら全て意見集約させていただけたらありがたいなと思っておりますので、もう一度、最終の落としどころを言いますと、病院の設置については前回は紙でしたが、今回はL o G o フォームに限定をさせていただきたいというのがまず1点、変更点です。これは前回との比較検証を、意味合いを含みますので、もしL o G o フォームだけにして回答数が減りましたという結果が出た場合は、次のアンケート時には改めて手法の再検討をしますというのを前提にしておきたいと思っております。

もう1点、無作為抽出については、一応前回のアンケートで一定検証はできているんですが、改めてもう一度検証をするという前提で、今回は200人の郵送は紙での回答を可としたいと思っております。ただし、QRコードを記載して、郵送分であってもL o G o フォームでお答えいただけるという環境にはしておきたいと思っておりますので、それをどういう経路でお答えいただいたかということを確認して、次回以降のやり方については協議をさせていただきたいと思っております。

という形でいかせていただきたいと思います、先ほど言われたようにポスター型のものはどちらにしても作ろうと思っておりますので、広くサンプル数を集めるというための幅の広いやり方を併せてしたいと思っておりますが、そういう形でいかがでしょうか。よろしいですか。

完全にいいとは言えないかもしれませんが、一回やってみるという前提もちゃんと付け加えさせていただいておりますので、できましたらそういう形で皆さん一致で今回のアンケートの準備に入れたらと思いますので、最後の確認ですが、よろしいですか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

●中嶋委員長 では、ご異議がないということで、ご配慮いただきまして、ありがとうございます。アンケートの配布及び周知方法については、ただいまの案のとおり決めさせていただきたいと思っております。

すみません、ちょっと私の進行が悪くて2時間以上たってしまいまして、申し訳ございません。

協議事項2 その他

●中嶋委員長 次がその他になっておりますが、その他、何か皆さんございますでしょうか。よろしいですか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

●中嶋委員長 一応次回の開催はまだ決まっていないので、また1月以降に、ちょっとごめんなさい、今、日程がすぐ言えないので、調整の後、また皆様のほうに通知をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

一応アンケートのほうは4月以降のスタートを前提にこれから動いていきますので、それに連動して委員会のほうもまた開催をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

それでは、以上をもちまして本日の協議事項は全て終了とさせていただきます。大変長時間、ありがとうございました。

午後3時19分 閉会

箕面市議会市立病院評価委員会設置規程第6条の
規定により作成する。

令和7年12月24日

市立病院評価委員会

委員長 中 嶋 三四郎